

PROLOGUE

木二中 学校だより No.39 令和7年2月25日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j



KINGCRAFT「帝王学」～リーダーシップを身につける全人格的教育の重要性～

2025年春、寂しいことに私の恩師がまた一人、教育現場を去ります。私が以前勤務していた志学館高等部前野球部監督の川俣幸一氏です。(氏名の掲載については、承諾を得ています) 私が現役高校生だった時の野球部長の先生でもあります。公立高校を中途退学し、再入学した高校で「どうせ俺なんか…」とひねくれていた性根をこれでもかたたき直してくださった、私にとってはかけがえのない恩師の一人です。

その恩師が勤める志学館に教師として赴任、同時に野球部長に就任し、川俣監督、野球部長(私)、当時コーチだったN. T氏と3人体制で共に戦った7年間は、今でも私の財産です。残念ながら、甲子園に出場することはできませんでしたが、選手権千葉大会決勝でチャンピオンチームに挑んだこと、初戦で敗退して辛酸をなめたこと、その他にも思い出は尽きることがありません。生意気にも指導のあり方について意見の食い違いからぶつかり合ったこともありました。「勝たなければ…」と焦る私に、「おい竜二、そうじゃないんだよ、高校野球は」と諭されたこともありました。それらすべてが私の財産であり、指導者としての原点であると言っても過言ではありません。

意外にも知られていないことですが、私のもう一人の恩師、2019年1月に他界された元侍ジャパンU18小枝監督、そして川俣氏と、両方の偉大な監督の下で指導者として勤務したのは、後にも先にもこの私だけ、というのが唯一の自慢でもあります。(そう思い込んでいるだけです…)

さて、前置きが長くなりました。PROLOGUE No. 39は、「帝王学」について。私は前述したお二人の偉大な監督から通算13年間、選手、学生コーチも含めると通算17年間にわたり、高校野球の指導者としての帝王学を学んだと自負しています。高校野球の指導者に止(とど)まらず、一教師として、それ以前に人として、人の上に立つ(=生徒の前に立つ)前に自身がどうあるべきかを徹底的にたたき込まれた17年間でした。そもそも帝王学とは、

帝王となる者が行なう修養。王家や伝統ある家系・家柄などの特別な地位の跡継ぎに対する、幼少時から家督を継承するまでの特別教育を指す。
【Source: ウィキペディア】

とされています。もう少しわかりやすく言うと、リーダーシップに関する知識や技術を体系化した学問とも言われ、主に指導者に必要な資質や能力を磨くことが目的とされているもの。この概念には、人としての道徳的価値観や倫理的価値観が重要な要素として含まれています。要するに、王家や皇室など伝統ある家系・家柄などで行われる、特別な立場にある人間が、その立場にふさわしい能力を養うために学ぶ全人格的な教育のことを「帝王学」というのです。

全人格的(ぜんじんかくてき)：人を、身体や精神などの一側面からのみ見るのではなく、人格や社会的立場なども含めた総合的な観点から取り扱うさま。
【Source: Weblio辞書】

ここ数年?数十年?、そんな「帝王学」が新たなリーダーシップ教育として注目されていることは言うまでもなく、書店には「リーダー育成」や「経営学」に関する、言わば組織を適切に動かすための書籍が溢れているのを目にしたこともあるでしょう。世界的には、英国のエリザベス女王が受けた帝王学が「世界最強の帝王学」と言われています。しかし、国際教育評論家の村田 学(むらた・まなぶ)さんによれば、「ごく普通の子供」にこそ帝王学が有効なんだとか。

【村田 学(むらた・まなぶ)：国際教育評論家、eduJUMP!編集長、インターナショナルスクールタイムズ編集長。米カリフォルニア州トランス生まれの帰国子女。2021年時の情報】

エリザベス女王は、弱冠25歳で英国国王に即位していますが、生まれながらにして女王になるべくしてなったわけではありません。当時の英国国内における諸般の事情からエリザベスが次の国王としての期待が寄せられるようになって初めてエリザベスに対する帝王学が開始されたそう。後に世界最強の帝王学と称されるわけですが、エリザベスが学校に通わずして(英国史上最長君主でありながら学校に通ったという経歴が

ない)身につけた帝王学によって、英国のみならず英国王室の数々の苦難を乗り越え、最長君主として君臨し続けてきた様はまさに驚異であると思います。(興味がある人はエリザベス女王の帝王学を調べてみてください)

では、帝王学が「ごく普通の子ども」になぜ有効であるのか。大きな要因を3つ、挙げたいと思います。

エリザベス女王は学校に通うことはありませんでしたが、名門校イートン校の教授研究室で木二中生の皆さんと同様に法律や地理、歴史、算数といった学問、音楽や美術のような通常の学校で学ぶであろう学問について教えを受けています。その一方で、

①一人の英国人少女としての英国一般国民の生活に入り、国民の暮らしぶりを知る。

②大戦中には軍務に就き、軍事の側面から国を知る。

③上記の体験を通じて国王に就く前に弱者への視点を持つことを学ぶ。

どういうことかわかりますか？エリザベス女王の帝王学では、常に国民に寄り添いながら現実に生きる人々とふれ合う経験を通じて、上に立つ者として一方通行の関係ではなく国民と互いに信頼し合う関係を築いたということです。上記3点を言い換えれば、

①相手の立場や状況を知り、それをしっかりと考えながら接することができるようにすること。

②人が嫌がる事でも率先して取り組むことで、物事の本質を知ること。

③リーダーたる以前に、強者だけではなく弱者や少数意見にも配慮ができる素養を身につけること。

ではないでしょうか。そしてこれらは何も王家や伝統ある家系・家柄などの特別な地位の跡継ぎに対する幼少時からの特別教育ではない。「ごく普通の子ども」に対しても有効かつ必要な教育要素である所以だと私は思います。

間もなく令和7年度。現在の学級は進級を迎えることで解散し、新たな学年・学級で組織が再構築されることでしょう。新年度にリーダーになる人、そうでない人もいると思いますが、上記のような視点で自分が所属する組織について考えるのもいい機会になるのではないかと思います。

大げさかもしれませんが、リーダーになる人は自己の判断・教育・指導が人(部下・組織に属する人々)の人生を左右する自覚があるかどうか。例えば、国の命運と部下の命を預かりながら、幹部としての帝王学をたたき込まれているのが幹部自衛官なんだそう。候補生教育から始まり、一生を通じてリーダー教育を学び続けるのだとか。リスペクト以外に何もありませんよね。

組織は単なる人の固まりではありません。生徒会、各学年、各学級、各委員会、各部活動、学校には様々な組織が存在していますが、それぞれを代表するリーダーたちが他者から「こんな人についていきたい」と思われるリーダーたちなら、組織の成長に直結していくことになるでしょう。